

現庁舎の概要

- **耐震性不足** 本庁舎等は昭和56年以前の旧耐震基準で建設され、また**建築から約60年が経過**平成20年度の耐震診断では、**耐震性が不足**しているとの結果であった
- **窓口狭隘化** バリアフリー・ユニバーサルデザイン等に対応しておらず、住民の利便性が低いレイアウト

所在地	施設の構成	敷地面積
本庁（敷地北側） 〈谷川一丁目〉	本庁舎、議場棟、西別館、厚生棟、北倉庫 など	6,616.14㎡
本庁（敷地南側） 〈曙町〉	南別館、東別館、会議棟	2,351.65㎡
合 計		8,967.79㎡

棟 名	主要構造	階	建設年	経過年数	延床面積
A.本庁舎	RC	3	昭和40年	約59年	3,366.79㎡
B.議場棟	RC	2	昭和40年	約59年	713.19㎡
C.西別館	RC	5	昭和56年	約43年	2,404.90㎡
D.南別館	鉄骨	2	昭和50～57年	約42～49年	618.97㎡
E.東別館	軽量鉄骨	2	平成7年	約29年	745.48㎡
F.厚生棟	鉄骨	2	昭和40年	約59年	819.17㎡
G.北倉庫	軽量鉄骨	2	平成10年	約26年	136.62㎡
H.会議棟	軽量鉄骨	2	平成12年	約24年	324.92㎡
合 計					9,130.04㎡



基本構想策定以降の取組

①：DX等を踏まえた庁舎の方向性検討

- ・基本方針に掲げる「時代の変化に対応できる未来志向の庁舎」「利便性が高く機能的で、だれもが利用しやすい庁舎」等をめざして庁舎整備を行う
- ・ABW（Activity Based Working）・フリーアドレスの導入、ペーパレス化の推進等をめざす

②：庁内横断の市民サービス部会を設置し、新庁舎での総合窓口等の検討を実施

- ・総合窓口システムを活用し、「ライフステージに関する手続き」「証明書発行」のワンストップ化を検討
- ・令和7年度のシステム標準化以降かつ新庁舎の供用開始前に総合窓口の先行導入を予定
- ・本格導入までは、スモールスタートで総合窓口に関する業務を検討・実施

③：庁舎敷地の測量・境界確定・登記業務の実施

- ・現庁舎敷地の現況測量を実施し、敷地周囲の境界についても確認
- ・地目変更・地積更生等の登記関連業務を実施

大きな論点の一つとなる「機能統合」については、[資料2](#)を参照

早急に検討を進める項目

④：機能統合についての検討

- ・すこやかセンター等の本庁舎への機能統合

⑤：おおよその整備規模の決定

- ・増築棟及び耐震改修棟の整備規模

⑥：耐震診断の実施

- ・整備規模が決定した後、実施予定

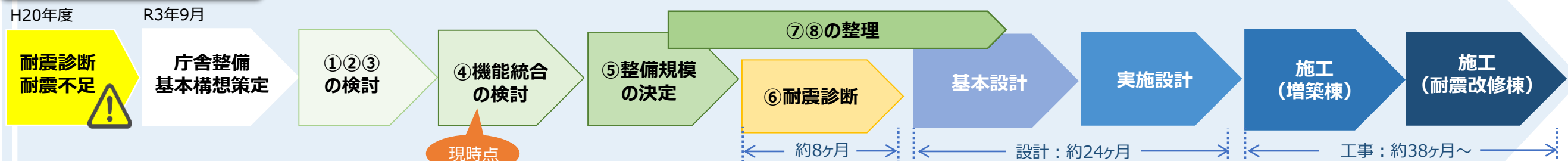
⑦：事業手法の決定

- ・設計施工分離方式やDB方式等の事業手法

⑧：その他

- ・CM(コンストラクションマネージャー)の活用
- ・ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の導入
- ・構造種別の決定
- ・大まかな部局等の配置

庁舎整備事業の流れ



大東市庁舎整備基本構想

～令和3年9月定例月議会において議決～

〈決定事項〉現在地での「既存耐震＋増築」

◆ 庁舎整備の基本方針（5本柱）

1 大規模災害時でも市民の安全・安心を守り、事業継続が可能な庁舎

- ・災害時の活動拠点として必要な行政機能を継続できる庁舎整備
- ・大地震に備えた庁舎の耐震性能の確保
- ・大規模水害も想定した対策

2 時代の変化に対応できる未来志向の庁舎

- ・ICTを活用し、時代に見合った庁舎をめざし、市民の利便性を高める
- ・将来的な変化に対応できる柔軟性を備えた庁舎づくり

3 利便性が高く機能的で、だれもが利用しやすい庁舎

- ・窓口部門の集約化等、来庁者に分かりやすく機能的な市民サービスの提供
- ・ユニバーサルデザインを採用し、快適で安全な空間を創出。

4 簡素で経済性に優れ、環境や景観に配慮した庁舎

- ・初期費用を最小限に抑え、経済性を重視したシンプルで機能的な庁舎をめざす
- ・維持管理にかかる費用などが将来過度な財政負担とならないよう努める
- ・環境の視点を十分に取り入れ、将来世代への負荷を抑制

5 市民・行政の共創の場となる庁舎

- ・地域住民とともに様々な地域課題を解決する拠点
- ・市の各種計画等との整合性を図り、市民・行政一体でまちづくりを進める拠点

導入機能（一例）

- ・災害対策本部機能整備
- ・安全な構設計画（耐震性能確保）
- ・浸水対策
- など

- ・各種手続オンライン化
- ・ペーパレス・内部事務効率化
- ・社会情勢に対応できる柔軟性、可変性
- など

- ・窓口ワンストップ化
- ・プライバシーの確保
- ・良好な空間形成
- ・セキュリティ対策
- など

- ・イニシャル、ランニングコスト低減
- ・環境への配慮（環境負荷の低減、省エネルギー化、ZEB化等）
- ・機能的な庁舎デザインの採用
- など

- ・開かれた庁舎の整備（アクセスしやすい動線、誰もが訪れやすい市民交流の場）
- ・情報発信
- ・開かれた議会
- など

◆ 庁舎の導入機能

- ・大規模災害への対応、ICTの積極的な活用を重点項目とし、上記5本柱に沿って設定

◆ 庁舎の想定規模

- ・「コンパクトな庁舎」を念頭に置き、できる限り規模を簡素化する
- ・中長期的にも経済的な庁舎整備を進める
- ・必要な部分は適切な面積・規模を確保、効率化すべき部分は縮小・削減を進める

◆ 候補地・整備パターン

- ・早期実現性、安全性、将来性、機能性、経済性、環境影響の6つの項目をもとに、比較検討

現在地（建替）	現在地(既存耐震＋増築)	市民会館	末広公園
---------	--------------	------	------